

## 第1回 新しい工業高校の整備候補地選定委員会 会議概要

- 1 日 時 平成25年5月24日 金曜日  
開会 13時00分 閉会 14時55分
- 2 場 所 京都市立伏見工業高等学校 呉竹館
- 3 出席委員 岡野哲也 委員,尾河清二 委員,信部尚平 委員,名高新悟 委員,前野芳子 委員,  
松重和美 委員,村上英明 委員,室保次 委員  
(オブザーバー) 恩田徹 洛陽工業高校校長,西田秀行 伏見工業高校校長
- 4 傍聴者 7人
- 5 主な次第 (1)教育委員会あいさつ  
(2)委員紹介  
(3)座長選出  
(4)事務局説明  
(5)質疑応答・意見交換
- 6 議事の概要

### (1)教育委員会あいさつ骨子(在田教育次長)

洛陽工業高校は明治19年に全国初の公立工業校として創設、伏見工業高校は大正9年に開校以来、一貫して、京都はもとより日本の産業界を支える確かな技術力と豊かな人間性を備えた有為な人材を輩出してきた。また、時代の変化・発展に応じた改革を推進する中で、昨今の極めて厳しい雇用状況の下においても、学校あつせん就職内定率は11年連続で100%を達成するなど、産業界をはじめ各界から高い評価を頂いている。

しかし、情報化や技術革新、グローバル化が著しく進行するなど、産業社会の激変に対応した人材育成が急務となる中、平成23年6月に両校の同窓会をはじめ、産業界、学識経験者等に参画いただき、「京都市立工業高校将来構想委員会」を設置し、幅広い観点から議論を重ね、昨年12月には将来の「ものづくり」を担う人材育成に果たす市立工業高校の役割についての「最終まとめ」を提出頂き、これを受け、本年4月には、洛陽工業高校と伏見工業高校を統合し、「新しい工業高校」として再編するに当たっての基本方針を策定したところである。

この基本方針において、「『新しい工業高校』の整備候補地については、学識経験者等により構成する委員会を設置し、検討を進める。」としており、委員の皆様には、

新聞報道もあった洛陽工業高校，伏見工業高校，また本市が学校法人立命館から利活用に関する照会を受けた立命館中学・高校を候補地として，3校の施設状況等の諸条件及び工事内容・工期などについて比較検討し，委員の皆様のこれまでの経験や専門性を活かし，多角的な視点から議論し，望ましい整備候補地について，検討いただきたい。

今後，教育委員会においても内部プロジェクトを立ち上げ，基本方針に基づいた教育内容の具体化などソフト面の検討を速やかに進めていくが，「ものづくり」を通じ，社会の発展と平和に寄与する「豊かな人間性」を育むとともに，工業教育という視点に止まることなく，今後の高校教育のあるべき姿を追求する広い視野に立った新しい工業高校づくりの実現に向け，委員の皆様には，是非お力添えいただきたい。

## (2) 座長の選出

複数の委員の推薦を受け，松重和美 委員を出席委員全員の賛同を得て座長に選出

## (3) 事務局の説明

「京都市工業高校の再編に関する基本方針」の概要

- ・平成24年12月に提出された「工業高校将来構想委員会」の「最終まとめ」の提を受け，4月18日に教育委員会として両校を「新しい工業高校」として再編することを決定した。
- ・「1 新しい工業高校の基本コンセプト」について，工業に関する専門的・先端的知識と技術の定着を図り，高校卒業後，「ものづくり」の現場を支える人材の育成を目指すことを主としつつ，大学等に進学する者にとっては，高校卒業後の高度な教育の中で飛躍するための素地を培う教育活動を展開する。
- ・また，目指す資質・能力について，前身の専門家検討会議「京都市立工業高校のあり方に関する検討プロジェクト」の「まとめ」で提言された6つの資質・能力に加え，生徒・保護者・産業界等のニーズを見据え，資料のアからエに示す観点を具体的に検討する。
- ・「2 施設・設備」について，基本的な技術・技能はもとより，加速度的に変化する「ものづくり」や新たな技術革新にも機敏に対応でき，さらに，「ものづくりセンター」としての機能を果たすことのできる施設・設備を整備する。
- ・「3 整備候補地」については，学識経験者等により構成する委員会を設置し，具体的に検討することとなったため本委員会を設置した。候補地選定にあたっては，敷地面積や交通の利便性，埋蔵文化財の包蔵状況，所要経費等を比較し，現在の両校の敷地を

比較・検討していく。

- ・また、両工業高校の現敷地での整備については、大規模な工事に伴う長期の教育活動への影響、仮設校舎設置に伴うグラウンド利用制限が見込まれることも勘案し、新たな敷地を候補地である立命館中学・高等学校について、地理的条件や施設状況、教育環境、また、工業高校として求められる実習室への改修の適否等に関する詳細調査を実施し、併せて検討を進めるものとする。

#### 整備候補地に係る施設状況

- ・**資料1**は両校の設置学科と募集定員であり、洛陽工業については全日制の創造技術科150人、夜間定時制は平成22年度末に閉鎖した。伏見工業についてはシステム工学科(全日制)170名、(昼間定時制)20名、夜間定時制30名の計220人である。両校とも入学時は1つの学科として受験・入学する「くくり募集」の形態であり、1年生の間に広く工業の基礎を学び、2年生からそれぞれの希望するコースを選択していく。
- ・**資料2**は両校の在籍生徒数であり、洛陽工業は全日制のみ298名(うち女子22名)伏見工業は全日制482名、昼間定時制50名、夜間定時制102名で女子はそれぞれ64名、4名、9名となっている。
- ・**資料3**は両校の平成以降の学科改変についてであり、時代のニーズに応じて両校とも小学科の再編・新設を重ね、現在の洛陽は1学科4コース制、伏見は1学科5コース制、定時制は昼間1学科1コース制、夜間単位制1学科となっている。
- ・**資料4**について、平成元年度には19,000人余りの中3生がいたが、現在は10,000人余りへと減少し、両校の募集定員についても平成元年度は680人であったが、平成25年度は320人と半減している。
- ・**資料5**は定時制であるが、両校の募集定員は平成元年度に200人+160人=360人から、平成25年度の50人(昼間20人+夜間30人)とおよそ1/7となっている。
- ・**資料6**は整備候補地の現状をまとめており、「1基礎数値」においては洛陽・伏見・立命館のそれぞれの生徒数、学級数、敷地面積、建物面積である。立命館中高は中学校と高校をあわせて1,700名余り、51学級を収容しており、敷地面積も70,000㎡余りを有している。建物面積は3校とも20,000~22,000㎡程度である。
- ・次の「2都市計画の内容」について、洛陽・伏見工業のいずれについては、大規模な商業施設はなく、住環境の保護された地域である第1種住居地域にあるが、洛陽工業には唐橋遺跡や西寺跡などの埋蔵文化財が包蔵されている。

- ・また立命館中学・高校については市街化を抑制する区域で限られた用途の建物などしか開発行為ができない市街化調整区域にあり，優れた自然的景観を有する第2種風致地区に立地している。
- ・交通の利便性については，資料中の地図を掲載しており，市バス，JR・地下鉄・京阪など交通機関のアクセス状況をまとめている。
- ・資料7については両工業高校及び立命館中学・高校の校舎配置図である。
- ・資料8は「市立高校及び市立工業高校の建物保有状況の比較」資料であり，棒グラフの左の青色が30年未満の建物，右の紫が60年以上経過の建物を示す。上が洛陽・伏見工業，下が市立高校全体の保有割合。市立高校全体の中でも，工業2校の30年以上経過の建物保有割合が9割近くに及ぶなど，経年化が進んでいることがわかる。
- ・資料9・資料10は，洛陽・伏見工業のそれぞれの校舎配置図上で保有状況を色分けしたものである。
- ・資料11は，両工業高校の校舎ごとの建築年次，面積，構造，耐震診断結果を示したもので，IS値については文部科学省として0.7以上に補強するよう求めているが，両工業について現段階でほとんどがその基準を満たせていない状況である。

(4) 委員からの主な意見，質疑応答（ は委員， はオブザーバー， は事務局）

洛陽工業高，伏見工業高と同様に，立命館中高の建築年や耐震補強の状況などの施設状況についてはどうか。

立命館中高は昭和63年に建設・開校しており，老朽化の進んでいる洛陽・伏見両工業高校よりも新しく，新しい耐震基準を満たしており，校舎は全て30年未満の建物である。

実際に学ぶ生徒にとって，教室の広さ，緑の多さ，交通の利便性等，どのような環境の中で学べるのが重要な論点になる。

新しい工業高校を整備するための追加投資がどれくらい必要となるのか，また使わない学校について，そのあと土地を有効活用した場合の財政効果など，収支の側面については幅広く考えることが必要。

工業高校といっても，実習のみだけでなく，部活動など様々な教育活動を実施していくにあたり，将来的な生徒数を見込んでの一人あたりの面積についてのデータが必要。

洛陽工業高，伏見工業高なら改築，立命館中高なら改修となると思うが，概算で良いので，それぞれの必要経費を算定してほしい。

伏見工業同窓会としては，両校が1校に統合されることについては容認しているが，場所については，立命館中高は如何なものかと思っている。生徒が喜んでくれるためには，交通の利便性や安心・安全であることが必要であるが，例えば立命館中高と最寄り駅間のバスは1時間に1便しかなく，また，車が一方通行の道路があるなどの課題があり，他の候補地と比べると利便性が悪いと思う。

洛陽の同窓会である洛陽京工会では，再編後に同窓会の組織運営をどうするのかという議論が起こっているが，まずは将来の子どもたちのためにどのような学校にしていくのが第一であり，その同窓会の運営については新しい学校がどうなるのかという結論が出てから考えるべきと説明している。立命館は洛陽工業からは離れるが，生徒にとって行きたいと思う新しい目的の学校ができるのであれば，場所にはこだわる必要はないと考えている。

立命館中学高校の校舎を活用するのであれば，現校舎の耐震補強の必要はないが，立命館中高は市街化調整区域に立地しており，公共の建物であっても原則，新たに増築等はできないため，立命館で整備するならば，現校舎を使用することが前提になるのではないかと思う。なお，今後の検討に向けて，実習等で使用する重機が設置できるのか，増改築が可能か，バリアフリーに対応できているか等，工業高校として転用するための調査は必要。

また，非常に建物が古い既存の両工業高校を活用するのであれば，耐震改修するのか，新校舎を建てるのか比較し，実地視察も行いながら3候補地について費用対効果も考慮しながら検討すべき。

高校の校長としては，工業高校校舎の耐震化率が大変低い状況は懸念しており，新しい工業高校の整備を早急に行うべきと考える。西京高校は10年前に新校舎の立て替えを行ったが，埋蔵文化財の影響もあり，グラウンドにプレハブを建て，旧校舎を潰してから新校舎を建てたため，工期も当初の予定より1年延びた。工事中に入学し卒業せざるを得なかった生徒もいたため，大変申し訳ない気持ち。今回の整備では，在校生の教育活動に影響のないように最大限配慮すべきである。

この間，中学校現場ではキャリア教育にも力をいれているが，生徒の価値観として，普通科思考が強くなってきている。その中で，進路先として工業高校を選択してもらうためには，中学生・保護者にとってわかりやすい学校をつくっていただきたい。

大規模な人数での教育活動や女子教育の充実等，統合して新しい学校をつくっていくためには，立命館中高が良いと言っている訳ではないが，旧来の学校よりは，新天地でゼロベースから統合・再編される方が望ましいと思う。

構想委員会での議論では，現工業高校2校のどちらかで再編すると議論されていたと認識していたが，今年度になってから立命館中学高校が候補地として上がってきた。立命館中学・高校が長岡京市に移転する理由は何かしっかり調べてほしい。移転理由については，良い面だけでなく悪い面もあると思うので説明いただきたい。今後地域とどう向き合っていくのかが重要になる。

学校法人としての企業戦略等の問題もあるので，公表されている可能な範囲で情報提供を。

移転理由についても，経営上等の問題もあると思うが，可能な範囲で説明させていただきたい。

洛陽工業は，校舎の老朽化をはじめ，部屋の中に電源がない等の問題も多く，現校舎の耐震改修は現実的ではない。そもそもが50年前の工業教育に対応して建てられた施設であり，コミュニケーションを図るための新しい通信機器の整備や三次元でものを考えるトレーニングができる設備等，新しい技術やものづくりに対応できるようゼロベースで施設を整備することが必要だと思っている。

洛陽・伏見工業は老朽化が進んでおり，新しい土地で整備すべきだと考えている。その中で立命館中学高校が望ましいのかは今後の検討になるが，2階に重量のある工作機械が置けるのか等，実習スペースの確保について，今後，建築の専門家委員の意見も伺いながら，工業教育をしっかり実施できる環境整備を検討いただきたい。

大地震がいつ発生してもおかしくない我が国において，現在避難所に指定されている老朽化が進んでいる小学校も多いため，防災機能を有した地域の避難場所として活用できる学校として地域の要望にも応えていただきたい。

候補地近郊の市の地域の避難所における建物の耐震性などの情報提供をお願いしたい。

次回の委員会までに立命館中学高校校舎の天井の高さなど実習棟として活用が可能なのか資料を示してほしい。

教室等の床の耐荷重の制限については，設計時に一定示されていると思うので，ある程度の現時点で判断は可能。

フライス盤等の重量のある工作機械の荷重の問題については，業者に調査を委託するが，次回の視察までに可能な範囲でお示しさせていただく。しかしながら，全て

の資料が揃わない可能性もあることについてはご了承願いたい。

立命館中学高校は普通科高校であるため建設時に工業高校の特殊な重機を設置することを想定していないため、実習スペースを確保するためのある程度の天井高の確保の検討，荷重等の計算は必要。高さを確保しないといけないのであれば，2Fの天井を抜くことが構造上可能かどうか等の調査が必要。

今後の進め方について，会議の開催頻度は，1カ月に1回程度のペースで協議・検討を重ね，議論の状況も踏まえながら，候補地を1つに絞って，早ければ本年秋頃に「最終答申」を教育長に提出させていただきたいと考えている。

また，次回は，候補地の実態をより把握するため，現地視察に行きたいと考えている。洛陽工業と伏見工業は見ている方も多いので，まずは，新しい候補地である立命館中高の視察は必要である。

(5) 閉会

14時55分，座長が閉会を宣告。